

国際・多文化インターンシップ ーシンガポールでの調査を終えてー

「グローバルな環境下で働くということ」

大坪 微(Otsubo Honoka)



<研修期間>

2019年8月7日～8月28日

<派遣先国・地域、都市名>

シンガポール

<企業名(業種)>

Dun & Bradstreet(金融)

<業務内容>

会議資料の作成、請求書の作成、データ入力等

<新たに気付いたこと>

オフィス内は英語だけでなく中国語や韓国語も聞こえてくる環境であり、多様な人種の社員の方々と働かせていただけるのはシンガポールならではの環境だと思いました。様々な国の企業を対象としているため、グローバルな環境で働くというイメージができました。将来日本で働いていたとしても、取引先企業は日本の会社とは限らないため、大変良い経験になったと感じています。

「海外で働くことについて」

クリストファー・ジェイコブ・ダラス Jr

<研修期間>

2019年8月7日～8月28日

<派遣先国・地域、都市名>

シンガポール

<企業名(業種)>

Media Japan Pte., Ltd. (メディア)

<業務内容>

メールの確認／インタビュー同行／インタビュー内容の文章起こし／出版物の整理／記事の翻訳



<新たに気付いたこと>

私はこのインターンシップを通して、働く際に必要なこと、自分にできること、できないことについて学ぶことができた。働く際にとくに必要なのは仕事の管理と社員とのコミュニケーションであり、私は自分に与えられた仕事をこなし、社員とコミュニケーションをうまく取ることを学んだ。また自分にできること、できないことを知ることで、どのように仕事をしていくかについて学ぶことができた。

「仕事の流れを通じてオフィス全体での繋がりを学ぶ」

酒井 菜々子(Sakai Nanako)

<研修期間>

2019年8月7日～8月28日

<派遣先国・地域、都市名>

シンガポール

<企業名(業種)>

NNA シンガポール (経済通信社)

<業務内容>

営業(日系企業への架電、日系企業へ実際に行き新聞・契約内容の説明)／新しくできた商業施設への取材、記事作成、コラム作成／顧客リストの整理、グラフ作成

<新たに気付いたこと>

前述の通り、様々な実務をさせて頂いた。取材に行き、記事にする。顧客整理をして、営業の電話をかける。アポイントを取って、実際に新聞や記事売り込む等、仕事における「流れ」が重要であることを学んだ。オフィス全体での協力や関連性を強く感じた。



「完全英語での金融会社でのインターンシップ」

鈴木 颯人(Suzuki Hayato)



<研修期間>

2019年8月7日～8月28日

<派遣先国・地域、都市名>

シンガポール

<企業名(業種)>

Dun & Bradstreet (金融)

<業務内容>

電話対応／会議／データ入力

<新たに気付いたこと>

従業員が外国人しかおらず、英語で指示を受けて業務を行うのは半端な英語力ではどうにもならないと感じた。電話対応の業務を行ったが、シンガポールには様々な人種がいて英語のイントネーションも様々で、それを電話で正確に聞き取るのは難しくとてもハードだった。海外のこのような環境で働くには相当な精神力と英語力が必要であることが分かった。